

2 安全なスポーツ活動を行える生徒の育成

— 部活動中における事故を防止する安全の指導と管理を含めて —

山形県立山形中央高等学校 校長 渡邊 茂 泰
教諭 佐藤 誠 基

I 学校の規模 学級数21 生徒数841 教職員数75



年山形県立山形中央高等学校となり現在に至っている。昭和61年に県内では初の体育科を設置、スピードスケートの加藤条治選手を初めとし世界的な大会へ出場する選手を輩出している。体育科設置も影響し運動部は特に盛んで、バレー、ラグビー、陸上、ソフトテニス、サッカー、スキー、柔道、水泳、スケートなどは全国大会まで駒を進めることが多い。現在は普通科15クラス、体育科6クラス、全校生徒数が841名。進学面においては、約70名の国公立大学合格者、約130名の私立大学合格者を出しており、進学校としての地域の期待にも応えている。「友愛・自由・平等・団結」の校訓のもとに、全教職員が教育活動の全領域にわたって、生徒理解を基盤に据えた指導を実践し、生徒一人ひとりが意欲的に学校生活を送れるような気運の醸成に努めている。

II 研究のポイント

- [1] 運動部活動中における事故の防止
- [2] 運動部活動中の安全意識の向上
- [3] 運動部活動中の安全指導と管理の方法

III 研究の概要

1 地域の実態

山形市は、秀麗な山々に囲まれ母なる最上川や緑豊かな田園など美しい自然に恵まれた地域であり、農地や、里山、集落や市街地など土地利用の編み目が綾をなし、美しい県土を形成している。東京からは概ね300kmの距離にあり、東西で約97km、南北約164kmに及び、県土面積は、国土面積の約2.5%を占めており全国第9位の位置にある。さらに、この72%を森林が占めている。県の東側に奥羽山脈が南北によこたわり、それと平行して県の中央に出羽山地、朝日山地、飯豊山地が連なっている。この山地の間にある内陸盆地をぬって最上川が流れ、庄内平野を経て日本海に注いでいる。

2 学校の実態

本校は昭和21年に山形県山形公民中学校として設置された。その後、昭和22年山形市立山形産業高等学校、昭和23年山形県立山形第六高等学校、昭和25



3 主題設定の理由

本校は普通科と体育科を併設している。そのため部活動が大変盛んであり、県民の期待も高い。それぞれの部活動では様々な練習メニューを組み、競技力向上に取り組んでいる。ハードな練習だけに、活動中の事故も後を絶たない。本校の部活動のケガの状況は、年間70件であり山形県内では多い方となっている。発生時期は8月がもっとも多く、内容としては骨折、捻挫が多い。こうした事故のパターンや状況等を研究することにより、安心してスポーツ



活動を行える生徒を育成する。

また、部活動中の総合的な安全の指導と管理の進め方を推進していく必要があり、全校的な部活動安全意識の向上を目指してこの研究主題を設定した。

4 研究仮説

【仮説1】

複数の校務分掌がかかわった学校安全組織を作ることにより、全教職員の共通理解を得ることができる。

【仮説2】

一流選手の経験談を聞くことにより「競技力向上とケガの防止（自己管理の必要性）」の意識を高めることができる。

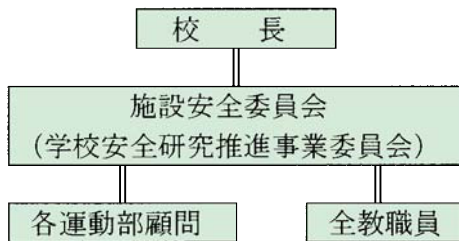
【仮説3】

生徒の安全意識調査を行うことにより、安全に対する意識を多面的に考察し、本校生徒の事故発生傾向を知ることができる。

【仮説4】

安全なスポーツ活動を行うための「手引書」を作成することにより、事故を防止する安全なスポーツ活動を行う部活動が多くなる。

5 研究組織



6 研究の経過

(1) 平成16年度

- 4月 第1回学校安全研究推進事業委員会
- 4月 学校安全研究推進事業中央研修会
- 5月 第2回学校安全研究推進事業委員会
(中央研修会の報告会)
- 6月 第3回学校安全研究推進事業委員会
(研究の進め方について)
- 6月 スポーツ講話 (中垣内祐一氏)
- 7月 運動部顧問会議
(部活動安全指導要項作成について)
- 7月 安全に関する意識調査 (学校祭で発表)
- 9月 安全に関する意識調査の学校祭発表
- 11月 「運動部活動の安全な指導のために」
編集会議

- 12月 「運動部活動の安全な指導のために」 発刊
- 2月 学校安全研究大会
- 2月 「学校安全について」生徒保健委員会
学校保健委員会で発表

(2) 平成17年度

- 4月 「運動部活動の安全な指導のために」を生かした運動部活動の開始
- 5月 運動部顧問会議
- 6月 スポーツ講話 (堀井学氏)
- 6月 学校安全研究推進事業研修会
 - ア 各運動部顧問による「運動部活動の安全な指導のために」の資料説明
 - イ 保健部による本校のケガの状況説明
 - ウ 「運動部活動の安全な指導のために」に関する講評
- 8月 運動部顧問会議
- 8月 第4回学校安全研究推進事業委員会
- 9月 第5回学校安全研究推進事業委員会
(本研究に関する総括会議)
- 10月～「運動部活動の安全な指導のために」を生かした運動部活動の継続

IV 研究の内容

1 スポーツ講話

(1) 中垣内祐一氏 (平成16年6月)

堺ブレーザーズ監督の中垣内氏より、「バレーボールとともに」について講演していただいた。体育・スポーツに関する専門的な知識や最新の情報を提供していただき、一流プレイヤーの競技観のみならず物事の考え方について研修を深めることができた。「日本一になるためには、その代価を払わなければならないことが理解できた」と、生徒からの感想があった。

(2) 堀井学氏 (平成17年6月)

リレハンメルオリンピック、スピードスケート500m銅メダリストの堀井氏より「モチベーションを高め目標を達成するための秘訣」について講演していただいた。生徒からは、「有言実行」の大切さが理解でき、積極的な自己宣言をしようという前向きな声が聞こえた。県高校総体を前にし、モチベーションが上がって大変良い講演となった。

2 安全意識調査

(1) 調査方法と発表内容

平成17年2月に「学校安全について」(生徒保健委員会)の学校保健委員会発表が行われた。こ

